



新春の志



校長 石田 和義

始業式の朝、寒さの中「おはようございます」「あけましておめでとうございます」と元気にあいさつをし、登校する子どもたちの姿を見ることができました。子どもたちが「冬休みの宿題を全部したよ。今年もがんばるからね」「今年も自分のやりたいことに進んで取り組むよ」と声をかけてくれました。ごく自然にやる気を伝え、意欲的に新しい年のスタートを切ろうとする姿に、『なんて素直で、素敵

「新春の志」と揮毫する6年生

な子どもたち何だろう』と感心しました。

始業式後、子どもたちは書き初めに取り組みました。1、2年生は各教室で、3年生以上は体育館で実施しました。その中で、6年生の子どもたちが一心不乱に一筆一筆集中して“新春の志”と書く姿に、書初大会に懸ける強い意気込みと『これから的一年、自分の志をしっかりともって生きていきたい』という意志を感じることができました。後日、子どもたちは、“新年にあたっての目当て”“新春の志”について考え、話し合いました。以下に子どもたちの“目当て”、“志”を紹介します。

「あいさつをかんばる」(1年生)

わたしは、2学年、あいさつをあまりできませんでした。だから、3学年は、げん気に大きなこえであいさつをがんばります。

「あいさつを自分からするわたし」(2年生)

わたしは、あいさつを自分からできるようにしたいなと思います。なぜかというと、いつもあいさつをしてもらつてからあいさつをしているからです。そのために、自分からあいさつをしてみようと思います。

「実力でつかむベスト10」(3年生)

ぼくは、自主活動で朝からたくさん走って、記録会でベスト10に入りたいです。前にベスト10に入った時はうれしかったけど、足の速い人が休んだ時でした。次は、自分の実力でベスト10に入れるようにがんばりたいです。

「高学年に向けてしていきたいこと」(4年生)

私は、高学年に向けて片づけをがんばりたいです。片づけが苦手だからです。だから、高学年として、低学年のみんなのお手本になれるように、当たり前のことを当たり前にできる自分になりたいです。

「6年生さんみたいになる」(5年生)

私は、もうすぐ6年生になって学校の最高学年になって学校を引っぱっていくから、6年生さんみたいにすばやい行動を心がけたいと思います。6年生さんにたよらず、6年生さんみたいに行動したいと思います。

「実行」(6年生)

ぼくは、「実行」という言葉を新年の志にしていきたいです。ぼくは、これまで言葉にするだけが多かったので、実行して悔いのないようにしていきたいと思います。

「将来のぼくのためにがんばる」(6年生)

ぼくは、習った漢字を読めるようにしたいです。なぜなら、中学校はどの勉強も漢字が読めないと困るからです。勉強をして、大人になったらいろいろと仕事ができるようにしたいです。将来のぼくのためにがんばります。

降り積もった雪もいつしか消えてなくなります。そして、雪が消えたころには1年生は2年生、2年生は3年生、3年生は4年生、4年生は5年生、5年生は最高学年、6年生は中学1年生へとそれぞれ進級・進学します。

3学期、子どもたちが、自分の“目当て”、“志”を実現することができるよう、精一杯励まし、応援していきたいと思います。地域、保護者の皆様には、変わらぬご支援をお願い申し上げます。

1月の行事予定

- 1日（木）※元旦
- 5日（月）集金振替 執務始め
- 8日（木）第3学期始業式 書初大会
- 9日（金）給食開始
- 12日（月）初成人の日
- 15日（木）避難訓練 安全点検 委員会活動
- 22日（木）堀川チャレンジ活動
- 27日（火）第4・5学年スキー教室
- 29日（木）委員会活動



2月の行事予定

- 5日（木）堀川チャレンジ活動（3年生見学）
- 6日（金）中学校新入生説明会
- 11日（水）※建国記念の日
- 12日（木）委員会活動（4年生見学）
- 14日（土）学習の発表会・家庭教養講座
- 16日（月）振替休業日
- 17日（火）避難訓練 安全点検
- 17日（火）～20日（金）教育相談日
- 19日（木）第4回学校運営協議会
- 20日（金）集金振替日
- 23日（月）※天皇誕生日
- 24日（火）～27日（金）学習のたしかめ週間



ザクロ果汁洗剤が教えてくれたこと

4年 横道 直

堀川小学校敷地内では、カキやミカン、ユズといった果実が実ります。南門で総合的な学習をしている3年生は、カキを収穫し、秋の実りを楽しみました。職員室でも、大きく実ったミカンの甘酸っぱいがうっすらと香り、冬の訪れを感じていました。

飼育小屋のある飼育の庭には、ザクロが実ります。ちょうど4年生の教室の窓は、赤いルビー色の果実が見えるのです。12月中旬、ザクロの旬は過ぎていましたが、4年生の教室で、何人かの子どもたちがザクロの実をスケッチしていました。その様子を見ていたAさんは、「ザクロは酸っぱいから、きっとクエン酸が入っていて洗剤ができるはず」と言い、実っていたザクロを収穫しました。調べてみると、クエン酸が豊富に含まれていることが分かりました。「クエン酸は汚れを落とすのに効く。お店にもクエン酸入りの洗剤もあった」と話しながら、ザクロの果肉や種をペットボトルに入れ、ザクロ果汁洗剤をつくり始めました。次の日、その手づくり洗剤を使って窓を磨いたり洗面所の水垢とりを試してみたりと、「クエン酸だからこそ洗剤になるはずだ」という自分の仮説を確かめようと楽しみながら試行錯誤しているのです。市販の洗剤に比べると、洗剤の効果は薄かったかもしれません、Aさんの表情はとても明るく、何かを成し遂げたような笑みがこぼれています。わたしたちの生活に便利な道具やことが生まれるときは、このAさんのような豊かな発想力が働いているのかもしれません。Aさんも発明者のような気分に浸っていたのかもしれません。将来、Aさんをはじめ、堀川の子どもたちが、この世に新しい商品を提案してくれるのかもしれません。

近年は、物にあふれ、情報収集も簡単にできる時代です。既存のものを生かしたり組み合わせて使ったりするなど、自らのアイディアや発想を生かすことで、わたしたちの暮らしを豊かにすることができます。子どもたちは、身の回りで見聞きしたことから心を働かせ、自分たちに役立つものを自分たちの力で生み出すことができるという大きな可能性を秘めていることをザクロ果汁洗剤から学ぶことができたのです。たとえ、うまくいかなくても挑戦や試行錯誤が子どもたちに必要だと思います。子どもたちのやりたくなったことや試したくなったことを共に楽しみ、支援していくける大人でありたいと感じました。